

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (四国)	◎	その他専門店 〔酒〕（経営者）	来客数の動き	・12月が近づいたため、お歳暮などを見に来る客が若干増加している。注文も少し入っており、景気はやや良くなっている。
	○	商店街（常務理事）	来客数の動き	・ようやく気温が下がり、季節らしい気候となった。衣料品を中心に季節関連商品に動きが出て、ようやく景気は良くなった。インバウンドは増加しており、街ににぎわいはあるものの、売上が増加する店は限られてきている。
	○	スーパー（店長）	お客様の様子	・ようやく気温が下がり、冬物が一気に動き出したことに伴い、客単価が上昇し、景気はやや良くなった。
	○	スーパー（店長）	単価の動き	・原材料価格の高騰により商品単価が上昇したものの、販売数量が減少しておらず、従来水準を維持し、売上が増加している。
	○	コンビニ（総務）	単価の動き	・来客数はやや減少傾向だが、客単価が上昇傾向であり、3か月前より景気はやや良くなっている。
	○	家電量販店（副店長）	来客数の動き	・暖かい日が続き、暖房器具の売上が前年割れの状況である。補助金の反動の影響もあり、特にテレビの売上が悪い。
	○	その他小売 〔ショッピングセンター〕（館長）	来客数の動き	・来客数は7月以降、前年比プラスで堅調に推移している。今月は一段と良くなっており、前年同期に行われた全国旅行支援の影響を大分吸収できている。
	○	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・台湾や韓国から空港へ来るインバウンドが好調で、市全体の消費を押し上げている。ソウルやプサンといった韓国の都市からのインバウンドは、個人客が多く、市内で飲食や買物をしている。また、台湾からのインバウンドは、温泉地域の宿泊の売上増加に寄与している。それに加え、欧米やオーストラリアからの来訪も増加している。
	○	タクシー運転手	来客数の動き	・今年はいうるう年で、新型コロナウイルス感染症もほぼ規制がなくなったことから、お遍路で逆打ちの仕事が増加している。その分、街のタクシー台数が減少し、それなりに売上が増加している。
	○	観光遊園地（主幹）	来客数の動き	・10月末から韓国への定期便が増便し、短期旅行に便利な時間帯が増便となり、インバウンドが増加傾向にある。
	□	商店街（代表者）	それ以外	・今年も、甚大な自然災害や世界を巻き込む各地の戦争で明け暮れた状況であった。しかも政局の不安や先の読めない米国大統領政権の政策の影響があるなかで、地方も生活物価が上昇傾向である。そのような状況においては、インフレによる金融商品の強含みやそれに伴う可処分所得の増加しか景気が良くなる要素がない。
	□	商店街（代表者）	お客様の様子	・物価上昇の影響が徐々に出ており、客の金の使い方が厳しくなっている。生活費が上昇しているが、収入の増加が追い付いておらず苦勞している。
	□	一般小売店〔文具店〕（経営者）	来客数の動き	・取引先からの受注量、件数共に前年と比べて減少している。しかも、来年早々にメーカーからの値上げ通知がある予定で、今後が不安であり、我々の業界は現状を危惧している。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	それ以外	・企業の祝い事用商品が増加している。しかし、商品を生産する数少ない農家が、コロナ禍の時期に生産を中止したことから、更に商品数が減少し、市場に注文をしても、希望の数量を仕入れるのが困難になっている。
□	スーパー（企画担当）	単価の動き	・今年度の動きとして、来客数はそれほど増加していないが、商品価格上昇に伴う客単価の上昇により、売上が増加している。	

□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・気温の低下とともに、季節品などの売行きは良くなってきたが、四季の特徴が弱まり、従来は売れていたものが、売れていない傾向にある。物価の上昇により、商品単価は上昇傾向にあるが、来客数や購入数量などは前年を下回っている。
□	スーパー（財務担当）	単価の動き	・野菜の価格高騰が続き、夏以降、売上が前年を上回り、順調に推移中である。
□	スーパー（人事）	来客数の動き	・例年よりも気温が高いことで、客の動きが活発である。
□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・来客数は前年より少し下がっているが、物価高で売上は増加している。
□	コンビニ（店長）	来客数の動き	・商品価格の上昇で、売上は前年並みを保っているものの、来客数がやや減少傾向で推移している。地元や市のイベント等が多く実施されたなかでも、来客数が増加しておらず、消費を控えている傾向である。
□	コンビニ（商品担当）	単価の動き	・肉や米といった原材料の値上げが著しい状況である。
□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・今月は衣料品関連業にとっては、それなりに景気が良い月である。しかし、月の後半になり気温が下がってきたものの、前半が暖かかったことから、売上は微減となった。
□	衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・衣料品販売では、気候の関係もあり、来客数が前年と比べて大きく減少している。最低賃金も上昇したことから、地方の中小企業は、今後かなり厳しくなり、商売の規模を縮小することでしか生き残れない。物価のみ上昇しても、中小企業の売上は減少し景気は良くならない。
□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・後半のブラックフライデーで少し持ち直したものの、前半の低調を補うほどではなかった。
□	乗用車販売業（営業担当）	販売量の動き	・販売可能車種が限られている状況が続いており、状況は良くなっていない。
□	都市型ホテル（経営者）	販売量の動き	・新内閣発足後も宿泊者数は安定的に推移している。しかし、飲食関係、特に地元利用者が多い食堂は、物価上昇の影響で動きが低調である。
□	タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比較して、人の移動はほとんど変更がない。昼間はクルーズ船が月に3隻前後、多いときで5隻前後寄港しているが、バスで移動する人が多い。また、昼は買物、夜は飲食のための移動利用も少ない。
□	競艇場（マネージャー）	販売量の動き	・前年同月の売上と、ほぼ同額を維持している。
□	設計事務所（所長）	それ以外	・業種にかかわらず、非常に設備投資等が好調な企業がある。一方で、飲食業や建設業での倒産も増加しており、両極端であり、どちらともいえない。
▲	商店街（代表者）	それ以外	・ここに来て原材料価格が上昇していることに伴い、商品価格や電気料金も上昇している。その影響を受け、徐々に消費が低迷している。
▲	一般小売店〔酒〕（経営者）	お客様の様子	・お歳暮関連商品がほとんど売れなくなった。ディスカウント店との価格差やお歳暮廃止の影響を受けている。
▲	百貨店（マネージャー）	販売量の動き	・インバウンドの消費や高額品の売上が堅調ではあるが、それ以外は厳しい。
▲	衣料品専門店（営業責任者）	来客数の動き	・前年と比べ10%ほど売上が減少している。単価の上昇もあり、来客数や客の買上点数が減少している。
▲	一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・今年に入り、来客数や客単価の前年割れが続いている。少人数の客が大半を占めるようになり客単価も下落している。
▲	旅行代理店（部長）	販売量の動き	・新たなインバウンド需要は発生しているが、従来の国内客の需要は低下している。
▲	美容室（経営者）	お客様の様子	・来店周期が長くなっている。
×	一般小売店〔書籍〕（営業担当）	販売量の動き	・店頭売上は前年と比べて増加していたが、外商売上が大幅に減少した影響により、全体での売上はマイナスとなった。

	×	美容室（経営者）	来客数の動き	・9月から11月は毎年売上が減少する月だが、今年は例年以上に売上が減少している。物価高の影響もあり、客が買い控えている。
企業動向関連	◎	—	—	—
(四国)	○	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・会社全体としては、ヒット商品拡販によるけん引が大きく、特に海外からの観光客の購入が旺盛であり、当分はこの状況が続く。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・竹を加工する事業をするとともに、米も作っており、例年よりも非常に高い価格で売れた。周囲でもそのような状況が見られ、景気は良くなっている。一方で、そのような取組をしていないところでは景気が悪いところもある。全般的には、景気は良くなっている。
	○	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・狙っていた工事が無事に受注できた。
	○	通信業（企画・売上管理）	受注量や販売量の動き	・11月はテレビCMの繁忙期であり、そのなかでも特にレジャーや映画関係が好調である。
	○	広告代理店（経営者）	受注量や販売量の動き	・人手不足に伴う採用関連広告や観光関連広告が増加した。
	□	農林水産業（職員）	受注価格や販売価格の動き	・青果物の卸売価格は、例年と比べ高値で推移した品目が多い。ただし、出荷量が例年と比べ少なく、生産者格差も大きいのが実態である。販売額は、数量の減少を高単価で穴埋めできていない品目が多く、前年同月を下回った。野菜の価格が高いとの報道が多いが、生産者の収入は減少しているのが実態である。
	□	化学工業（所長）	受注量や販売量の動き	・全社的な受注状況が前年の水準まで届いていない。
	□	鉄鋼業（総務部長）	受注量や販売量の動き	・造船関連の受注量や販売量は安定しているが、産業用機械関連は引き続き停滞している。
	□	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・国内では、大規模工事が計画、実施されているものの、慢性的なオペレーター不足や労働時間上限規制の影響見極めの動向もあり、需要は減少している。海外では、アジア、オセアニア、アフリカで需要が減少したものの、全体としては増加している。
	□	輸送業（経営者）	取引先の様子	・大きな不安、期待要素がなく、状況は変わっていない。
	□	通信会社（総務担当）	受注量や販売量の動き	・年末に向けて受注が増加する時期にもかかわらず、この3か月間ほとんど動きがない。
	□	金融業（副支店長）	取引先の様子	・3か月前と比べて、受注状況等は特に変化はない。
	□	税理士事務所	取引先の様子	・利益の状況などで大きく変化していることはなかった。
	▲	木材木製品製造業（営業部長）	受注量や販売量の動き	・2024年問題で工事の進捗が遅れ、受注量が減少している。今後もこの問題による工事進捗の状況は継続していく。
	×	—	—	—
雇用関連	◎	—	—	—
(四国)	○	—	—	—
	□	人材派遣会社（総務部長）	求人数の動き	・業界の動向として、景気が上向きであれば求人数が増加する。
	□	求人情報誌（営業）	採用者数の動き	・求人数は多い状態で推移しているなか、採用数が大きく増加せず、各業界において人手不足が解決されず、景気は横ばいである。
	□	職業安定所（求人開発）	求職者数の動き	・求職者数、求人数共に、若干の増減はあるものの、おおむね横ばいで推移している。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	それ以外	・物価上昇に伴い、各企業がますますレギュラー広告や固定費を抑制している。
	×	—	—	—